

能登 黒島集落を想う

清水 勝

能登地震から一ヶ月余。今、復興を祈る気持ちで能登観光地図を広げている。

七尾市の一本杉通りにはレトロな老舗商店が並んでいた。その一筋入った所には華やかな『花嫁のれん館』があった。七尾湾の前では取り立ての魚介類を浜焼きで頂いた。泊りは和倉温泉だ。

珠洲市にも行った。引き潮時には近くまで行ける『見附島』。そして能登半島の先端近くには『青の洞窟』。展望台から崖下に『ランプの宿』が見える。次いで半島をグルット回って輪島市に向かう。途中には立派な『時国家屋敷』、日本唯一の『揚げ浜式塩田』、『千枚田』と続き、『輪島の朝市』会場に着く。

これらの観光地は今回の地震で大きな被害を受けている。山崩れで道路が寸断されてしまった国道249号線。そんなことを想像もしなかった当時に訪ねたのが『黒島集落』だった。

海岸段丘上に細長く連なる集落で、江戸後期から明治中期にかけて全盛を極めた。北前船の寄港地というよりは、北前船の船主が屋敷を構え、船頭や水夫たちも居住する集落として発展した。この集落の建物群の特徴は、黒色の日本瓦、一階の格子、板張りの外壁といった共通したものがあり、独特の街並みを醸し出している。この景観から国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

アクセスが良くない所為で、観光客は少なく、ぶらぶらと角海家をはじめ、周辺の家並みを散策した。海側を総板張りにしているのは日本海からの季節風を避けるためだろう。

あれほど落ち着いた美しい黒島集落が、能登地震で大きな被害が出ているとのニュースに辛い、悲しい思いがする。

北前船で栄えた黒島港は海岸の隆起により海底が露出しているという。また伝統的な建物の大部分が半壊、倒壊した。過疎化が進むだけに半壊した自家を前に老人が、「この家は壊してもらって、小さな平屋でも建てて住めればいい。景観を残すのは、もう難しいかもしれない」と呟いているのが哀しい現実なのだろうか。